

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2008 年 9 月 30 日 (火) 2 限実施

千葉県立千葉東高等学校 第 3 学年 1,2,3,4,5 組+理系選択

Edited by K.Kataoka ©

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - 学年，組，名前を記入する。
 - 学年，組の該当個所をマークする。
 - 出席番号をマークする。(10 番以上は 10 の位と 1 の位の 2 カ所)
 - 男女の欄をマークする
 - 1.2.3 枚目のところはマークしない。
 - 停・欠・遅・早のところはマークしない。
 - 機械の読みとりミス確認のため、解答欄はマークの左側に番号を記入しておく。以上が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 4 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

倫 理

(解答番号 [1] ~ [50])

第 1 問 次の A B の文章を読み下の問い (問 1 ~ 問 6) に答えよ。(配点 14)

A ストア学派はギリシア・ローマ哲学史上、前 3 世紀から後 2 世紀にかけて強大な影響力をふるった。その創始者はキプロスのゼノンである。ストア学派の思想によれば、あらゆる認識の基礎をなすのは感覚である。世界は感覚的認識の総体であり、それゆえ物質的存在である。しかしその中には物質に還元できない英知が宿っており、それが物質世界に一定の秩序を与えている。この事物を秩序立てる力を神的火、または運命と呼ぶ。人間は内在する英知を自覚することによって、世界という秩序(コスモス)を認識しなければならない。人生の目的は、この [A] であり、それが最大の幸福をもたらす。それが道徳であり、義務であるとともに宇宙と一体化する修行法なのである。世界は巨大なポリスであり、人間は世界市民として、この世俗においても一定の役割を果たさなければならない。宇宙秩序に対する透徹した観照から、情念や思惑にかき乱されない [1] を養い、厳しい克己心と義務感を身につけてこの世を正しく理性的に生きること、これを(a)ストア学派的生活と呼ぶ。

エピクロスは前 307 年ころ、父の故郷であるアテナイに庭園つきの家をもとめ、そこに学園を創設した。その庭は後にエピクロスの花園と呼ばれ、彼自身は花園の哲学者と呼ばれることになる。彼はデモクリトスの説を継承して原子論の立場に立った。この原子論や感覚主義がただちに倫理的な教えと結びつく点に彼の哲学の特徴がある。原子論者である彼にとって真に存在するのは原子と原子が合成し、また離散する場であるト・ケノンのみであって、[B]であるから、恐れて不安に苦しむ必要はない。

死への恐れ、死後の不安から解放されるならば、それだけでも人間は [2] の境地に入ることができるのだが、生きているうちは安んじて快楽を追求すべきである。彼は感覚主義者らしく「胃袋の快」を善の、つまり快の基礎と見ているが、しかし彼はことさらに大食や美食を勧めているわけではない。大食や美食は胃袋の快どころではなく、むしろ苦痛を招きかねない。「パンと水」だけで満足するつつましい生活こそが快を実現する道ということになる。また公人としての活動はさまざまなわずらわしさの渦中に人を巻き込み、結局は苦を生みだすことにもなる。したがって有名な「隠れて生きよ」のモットーがこの哲学者の生活の信条となった。もっとも隠れた生活とは言っても、それは孤独な隠遁生活を意味しない。友人たちとの友情にあふれた交際は静かな快、静かな喜びをもたらす一つの道なのである。

B 新プラトン主義とは、後3世紀に〔 6 〕によって実質的に創始され、6世紀まで存続した哲学思潮。その後のヨーロッパ哲学史上にプラトン主義の伝統を定着させる働きをした。〔 6 〕自身かなり独創的な思想家であったが、自分の思想をすべてプラトン哲学からの帰結であると称していたので、この名がある。しかしプラトンにみられる政治的・実践的関心はあまりなく、もっぱら神学的・形而上学的局面に集中する。〔 6 〕に影響を与えたのはプラトン、アリストテレス、ストア学派、新ピタゴラス学派などの哲学であるが、ギリシア哲学ばかりではなく、その師アンモニオス・サッカスを介してオリエント、エジプトの神秘学からも多大のものを受け継いだ。〔 6 〕に至ってギリシア・ローマ文明とオリエント・エジプト文明が完全に一体化したとあってよいだろう。彼の著作は死後、弟子のポルフェリオスによって『エンネアデス』、つまり各巻9編から或る6巻の書物として出版された。

新プラトン主義によると、世界は可視的物質界と三つの不可視なる原理的な力よりなる。それは魂（プシュケー）つまり生命力と、叡智（ヌース）つまり宇宙秩序の認識機能と、一者（ト・ヘン）つまりあらゆる対立を統合する絶対者である。一者は「第一なるもの」または「善」と呼ばれ、それ自体はまったく単純なものでありながら、その中にありとあらゆる多様性を潜在的に含んでいる。これは完全な充実であり、あらゆる認識、生命、本質、存在を超越する。そして、「一者」から「叡智」が、「叡智」から「魂」が、あたかも〔 C 〕下のものは上のものと本質を同じくするが、勢いや力の劣った存在形態であり、三つの原理的なものは階層的秩序を保ちながら、しかも連続している。「一者」から遠ざかるにしたがって「一者」の力を失うことから、善と完全性において劣ることになり、そこに階層的世界が生じる。

問5 文中の空欄〔 6 〕に入る最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。
クレメンス プロティノス ディオゲネス プロクロス

問6 文中の空欄〔 C 〕に入る新プラトン派の考え方として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。〔 7 〕
もりあがる砂のように堆積する
はえだす樹木のように繁茂する
あふれる水のように流出する
かがやく太陽のように放射する

第 2 問 次の文を読み下の問い(問 1 ~ 問 5)に答えよ。(配点 14)

前 2 千年紀初頭に、神に選ばれたヘブライ人アブラハムが、[8]へ移住したできごとによって、ユダヤ民族の前史は始まる。(a)遊牧民アブラハムは、彼の子孫に[8]の地を与えるという神の約束を受けた。この契約に基づき、[8]は選民ユダヤ民族の約束の地になった。族長アブラハムの孫ヤコブは、別名をイスラエルと称し、のちに 12 部族の名祖となった 12 人の子らの父であったが、飢饉を逃れてエジプトへ移住した。その子孫がエジプト人の奴隷にされて苦役に服したときに、族長の神と名のる主の顕現を受けたモーセが、彼らを率いてエジプトを脱出した。彼らは紅海でエジプト軍の追跡から奇跡的に救われたのち、(b)シナイ山において主と契約を結んだ。この契約に基づき、主はイスラエルの唯一の神、イスラエルは主の選民となった。シナイ契約を確認するために、モーセを仲保者として与えられた[9]は、民族的・宗教的共同体として成立したイスラエルの生き方を決定する基本法となった。

前 13 世紀末に、イスラエル人は約束の地に定着したが、前 1000 年ころ、ユダ族出身のダビデが王となり、シリア・パレスティナ全域にまたがる大帝国を建設し、エルサレムを首都に定めた。(c)その子ソロモンが、エルサレムのシオンの丘に主の神殿を建立すると、主はダビデ家をイスラエルの支配者として選び、シオンを主の名を置く唯一の場所に定める約束をした、と理解された。ここから、[10](原義は「即位に際して油を注がれた王」)が、世の終りにダビデ家の子孫から現れるという期待と、エルサレム(シオン)を最も重要な聖地とする信仰が生じた。

問 1 文章中の空欄 [8][9][10]に入れるのに最も適当なものを、次の ~ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|------|-------|
| 「 8 」 | [| シリア | アラビア |
| | | シドン | カナン |
| 「 9 」 | [| トーラー | タルムード |
| | | アーク | シャリーヤ |
| 「 10 」 | [| ラビ | ヤハウエ |
| | | メシア | サンガ |

問2 下線部(a)に関して、旧約聖書に記されているアブラハムについての記述として最も
適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[11]

自分のつくった農作物を神に捧げたが受け入れられなかったのに、弟の捧げものである
子羊は受け入れられたために怒り、弟を殺した。

神によって地上にもたらされた洪水の際、箱舟を作って家族とともにすべての命ある
ものを一つがいつつれて入り、生き延びた。

神のいいつけに背いて木の実を食べたため、樂園から追放されて労働の苦しみととも
に死すべき運命を与えられた。

100歳にしてようやく授かったひとり子イサクを、神の命令にしたがい、殺して神へ
の捧げものにしようとした。

問3 下線部(b)に関して、この時にモーセが受け取ったとされる十戒の内容として正しい
ものは、次の の5つのうちいくつあるか、正しいものの数を ~ のうちか
ら一つ選べ。[12]

- ・あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。
- ・あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
- ・あなたは、神の像を造ってこれを崇拜しなければならない。
- ・盗んではならない。
- ・酒を飲んでではない。

0 1つ 2つ 3つ 4つ 5つ

問4 下線部(c)に関して、ソロモンの王国は分裂して後に滅ぼされたが、イスラエル民族
の危機的状況の中で神の言葉を人々に伝えようとした、旧約聖書に描かれた預言者と
して**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[13]

エゼキエル バプテスマのヨハネ イザヤ エレミヤ

問5 ユダヤ教と旧約聖書に関する説明として最も適当なものを、次の ~ のうちか
ら一つ選べ。[14]

ユダヤ教には救世主を待ち望む信仰がある。

ユダヤ教では新約聖書も聖典として信仰している。

旧約聖書には唯一神ヤハウェの人類への平等な愛が描かれている。

旧約聖書はギリシア語からヘブライ語に翻訳されて普及した。

第3問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 18)

「マタイ伝福音書」によると、イエスはヘロデ大王の統治下(前37～前4)に生まれたが、「ルカ伝福音書」によると、その誕生はローマ皇帝[15]による人口調査の勅令発布の年と結び付けられている。一般にこの人口調査は紀元後6～7年に実施されたと考えられているが、勅令はすでに紀元前7年に発布されていたと推測する学者もいる。

[16]をイエスの出生地とする「マタイ伝福音書」と「ルカ伝福音書」の叙述は、救世主は[16]から現れるという、ユダヤ人の期待に基づく物語であるかもしれない。古い伝承によると、イエスは「ナザレのイエス」とよばれているので、ガリラヤのナザレの出身であったと推測される。父はヨセフ、母はマリア。兄弟たちや姉妹たちもいた。「マタイ」「ルカ」の両福音書の誕生物語では、イエスを処女マリアから生まれたとして、イエスの聖性の根拠としている。少年時代については、12歳のときエルサレムの神殿で教師たちと問答をし、その賢さに人々が驚嘆したという物語のほかには、何も知られていない。紀元28年ごろヨルダン川のほとりでヨハネの洗礼運動が始まると、彼から洗礼を受け、やがて弟子たちを集めて宣教活動を開始した。

「マルコ伝福音書」によると、イエスの活動のおもな舞台はガリラヤである。彼は民衆の間で教え、病人を癒し、悪霊祓を行うが、後述するように、ユダヤ教の伝統的教えに対して自由にふるまったため、律法学者や(a)パリサイ人などユダヤ教指導者の反感を買った。最後に、(b)過越祭を祝うためエルサレムに上京(日曜日)、そこでユダヤ教指導者たちと論争し、弟子たちを教えるが、その週の木曜日に12弟子と過越の食事(最後の晩餐となった)をともにし、その1人であるイスカリオテのユダに裏切られ、ユダヤの最高法院(サンヘドリン)によって逮捕、審問され、流神の罪で死刑の判決を受けた。しかし当時ユダヤ人は死刑執行権をもたなかったため、イエスをローマの総督[17]に反ローマ運動の指導者として訴え、死刑を強く要求した。福音書によれば、[17]はイエスにその罪をみいだすことができなかったが、ユダヤ人の声に負け、彼を「[A]」すなわち反ローマ的救世主僭称者として、エルサレム郊外のゴルゴタの丘で十字架につけた。

このことから、イエスは実際に反ローマ的暴力革命の指導者であったと想像する学者もいるが、福音書によれば彼の運動は政治的でも軍事的でもない。しかしイエスのように、この世界の終焉を意味する(c)神の国の宣教と治癒活動によって多くの抑圧された貧しい民衆をひきつける者は、支配者にとって好ましくない人物に違いなかった。しかもイエスのもとに集まる民衆のなかには、彼の意に反して民族的救世主王国の実現を期待する者もいたので、支配層はそこにいっそう危険を感じたことであろう。そのためにイエスの処刑には福音書が報告する以上に、ローマ人が積極的に関与したかもしれない。

問1 文章中の空欄 [15]・[16]・[17]に入れるのに最も適当なものを，次のそれぞれの
～ のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|--------------|------------|
| [15] | [| アウグストゥス | テオドシウス |
| | | コンスタンティヌス | ディオクレティアヌス |
| [16] | [| サマリア | ホレブ |
| | | ヘブロン | ベツレヘム |
| [17] | [| ポンティウス・ピラトゥス | ザカリヤ |
| | | ヘロデ・アンティパス | シモン・マグス |

問2 文章中の空欄 [A]に入れるのに最も適当なものを，次の ～ のうちから一つ選べ。 [18]

- | | |
|--------|--------|
| ユダヤ人の神 | ユダヤ人の子 |
| ユダヤ人の王 | ユダヤ人の敵 |

問3 下線部(a)に関して，パリサイ人の説明として最も適当なものを，次の ～ の中から一つ選べ。 [19]

- 神だけがイスラエルの主であるとの立場から，ローマへの納税を拒否し，ローマ皇帝の像を刻んだ貨幣も偶像として拒絶した人たち
- 政治的・宗教的・社会的支配権を握る，エルサレムの貴族祭司層とユダヤの地方貴族・地主たち
- 共同体のあらゆる規律の遵守を義務づけられた，修道院に似た共同生活者たち
- 律法の遵守を説く平民の律法学者・学者・教師たち

問4 下線部(b)に関して，ユダヤ教の過越祭の説明として最も適当なものを，次の ～ の中から一つ選べ。 [20]

- モーセに率いられてエジプトを脱出したとき，神はエジプト中の初子を殺したが，小羊の血を入口に塗ったヘブライ人の家だけは過ぎ越したことを記念する祭り。
- 新バビロニアを滅ぼしたペルシア王キュロス2世によって，バビロン補囚からイスラエル人が解放されたことを記念する祭り。
- イエスと弟子たちの最後の晩餐を記念して行われる，キリストの体となったパンとワインをとともに食べる祭り。
- イスラエルの神ヤハウェが，エルサレムとダビデ家を永遠にイスラエルの首都と王家に選ぶ約束をしたことを記念する祭り。

問5 下線部(c)に関して、イエスによる神の国の宣教の内容として適当でないものを、次の ~ の中から一つ選べ。[21]

時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。

神の国に入るために、律法の行いによって神の前で義とされなさい。

金持ちが神の国に入るよりも、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい。

神の国は見える形では来ない。実に、神の国はあなた方の間にあるのだ。

問6 福音書にある迷える羊のたとえ話の意味を表す文中の空欄 [B] に入る最も適当なものを、次の ~ の中から一つ選べ。[22]

徴税人や罪人が皆、話を聞こうとしてイエスに近寄って来た。すると、ファリサイ派の人々や律法学者たちは、「この人は罪人たちを迎えて、食事まで一緒にしている」と不平を言いだした。そこで、イエスは次のたとえを話された。

「あなたがたの中に、百匹の羊を持っている人がいて、その一匹を見失ったとすれば、九十九匹を野原に残して、見失った一匹を見つけ出すまで捜し回らないだろうか。そして、見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。言うてお

くが、このように、悔い改める一人の罪人については、[B]」

(ルカによる福音書 15 章 1 節-7 節)

悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある

悔い改める必要のない九十九人の正しい人よりも手がかかって大変である

悔い改める必要のない九十九人の正しい人たちが捜し回るべきである

悔い改める必要のない九十九人の正しい人ほどの救いは与えられない

問7 福音書中のイエスの言葉として**適当でないもの**を、次の ~ の中から一つ選べ。

[23]

求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。

安息日は人のためにあるもので、人が安息日のためにあるのではない

あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。

わたしが律法や預言者を成就するためにきたと思ってはならない。

第4問 次の文章A Bを読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 16)

A イエスの死後、彼こそ神が人間に遣わした救世主であると信じる人びとは、イエスが復活したことを信じ、[24]を中心として教団・教会(エクレシア)を形成した。これが原始キリスト教の成立である。彼らは、広くギリシアやイタリアにまで伝道をおこない、キリスト教の発展の基礎を築いた。

パウロは、ローマの市民権をもつユダヤ教徒として、最初はキリスト教徒の迫害に加わっていた。しかし、旅の途中で神の啓示を受けた彼は、キリスト教へと回心し、(a)異邦人への伝道に力をつくすようになった。パウロは自分の罪深さを深く認識して、「私の内に、すなわち、私の肉の内には善なるものが宿っていないことを、私は知っている。なぜなら、善をしようとする意志は自分にあるが、それをする力がないからである。すなわち、私の欲している善はしないで、欲していない悪は、これをおこなっている」と述べている。ここには、神に背いて自己の欲望のままに生きようとする根源的な罪、つまり、[a]原罪の意識がうかがえる。パウロが、ユダヤ教の律法主義に満足できなかったのは、この意識からのがれられない自分を自覚していたからである。

問1 文章中の空欄[24]に入る人名として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。

「 24 」	〔	トマス	ペテロ
		ヨハネ	ヤコブ

問2 空欄[a]に入る記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[25]

悪しき行為の積み重ねによって、自分自身に蓄積された
神の意志に反したアダムの罪のために、その子孫である人間が背負ってきた
人間を創造した神の本性に由来し、人間の理性に刻印された
きたない私心を持つことによって、共同体に対して迷惑をかけざるをえない

問3 下線部(a)に関して、異邦人の説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[26]

ギリシア語を話さない人々
キリスト教徒以外の人々
ユダヤ教徒以外の人々
ローマ市民権を持たない人々

問4 新約聖書のパウロの手紙の言葉として適当でないものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[27]

初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。このことばは、はじめに神とともにあった。

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストが私の内に生きておられるのです。

わたしたちは、人が義とされるのは律法の行いによるのではなく、信仰によると考えるからです。

たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ無に等しい。

B キリスト教は、皇帝崇拜を強要するローマ帝国のきびしい弾圧を受けながらも、民衆の中に深く浸透し、4世紀末にはついにローマ帝国の国教となった。この間、2世紀までに、イエスの伝記である四福音書(マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ)や使徒たちの手紙など27巻からなる『新約聖書』がまとめられた。その後、多くの異端論争や異教との対立を通して、信仰や教会のあり方(教義)が体系づけられていった。その理論的支柱となったのが、アウグスティヌスに代表される〔28〕哲学である。アウグスティヌスは、いくつかの思想を遍歴したあと、〔29〕の思想に出会った。これによって永遠なるものの存在を知ったが、「私が悪を欲し、善を欲しないということは、どうしておこってくるのか」という疑問と不安は解消されなかった。しかし、「パウロの手紙」を読み、ただ神への絶対的な信仰のみがこの矛盾を解決することを知る。アウグスティヌスは、生まれながらに罪を負っている人間を救うのは神の恩寵のみだと考え、教会こそがその救いを与える神の国の代理人であると説いた。そして、彼は、パウロによって唱えられた〔30〕というキリスト教の三元徳をギリシアの四元徳の上位に位置づけるとともに、神の絶対性と教会の権威を基礎づけた。

問5 文章中の空欄〔28〕～〔30〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれのうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|----------|----------|
| 〔28〕 | 〔 | 教 父 | スコラ |
| | | ギリシア | ローマ |
| 〔29〕 | 〔 | ストア学派 | グノーシス派 |
| | | リュケイオン学派 | 新プラトン学派 |
| 〔30〕 | 〔 | 洗礼と堅信と聖体 | 知恵と勇気と節制 |
| | | 信仰と希望と愛 | 父と子と聖霊 |

問6 ウィリアム・オッカムの思想についての記述として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。〔31〕

普遍とは知性の仮構物ではない。もしそうであれば形而上学は論理学と異なることになってしまう。

普遍とは個別者の一部でも本質全体でもない。恣意的に設定された個別者の記号に他ならないのである。

自然の事物は人間の理性が見習うべき神の理性の力によって秩序づけられている。キリストは肉となった。これは愚かであるがゆえに信じる。

第5問 次の文章を読み下の問い(問1～問3)に答えよ。(配点 8)

前2300～前1800年を中心にインダス文明が栄えたが、この文明の文字がまだ解読されず、この文明を担っていた民族の宗教・思想は憶測の域を出ない。この文明の終末とほぼ同じ頃、アーリヤ人が北西インドに進入し、前1200年を中心に(a)『リグ・ベータ』を編纂した。その後、前500年ころまでに主要なベータ聖典が成立し、[32]の根本聖典が整備された。この中には原始的な思想からきわめて高度の哲学的思弁まで見られ、インド哲学の基礎はこの時期に置かれた。『リグ・ベータ』の宗教は多神教で、神々の多くは自然神であるが、その哲学的賛歌と呼ばれるものは、なんらかの世界原理を想定して多様な現象世界の成立する理由を説明しようとし、全体として一元論的傾向が強い。この傾向は他の3ベータ・サンヒター(本集)、プラーフマナ(祭儀書)、アーラニヤカ(森林書)に受け継がれるが、(b)ウパニシャッドにおいて頂点に達する。

前500年になるとベータ聖典の権威を認めない多数の[33]と呼ばれる自由思想家が現れて、唯物論、快樂論など新思想を次々に唱えた。なかでもマハービーラとゴータマ・ブッダはそれぞれジャイナ教と仏教を創始した。

問1 文章中の空欄[32]～[33]に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれのうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|--------|---|---------|-------|
| 「 32 」 | [| ゾロアスター教 | バラモン教 |
| | | ヒन्दウー教 | マニ教 |
| 「 33 」 | [| 沙門 | 閻魔 |
| | | 阿修羅 | 外道 |

問2 下線部(a)に関して、リグ・ベータについての記述として**適当でないもの**を、次のうちから一つ選べ。[34]

- 人間の死後の魂が月世界から地上に再生するしくみが説明されている。
- ヴァルナ(四姓制度)の由来が原人プルシャの部位によって説明されている。
- ベータの中でも最古の文献で神々への賛歌を集大成したものである。
- 最高神的地位にあるインドラ(帝釈天)を中心とする神話が描かれている。

問3 下線部(b)に関して、ウパニシャッドに関する記述として最も適当なものを、次のうちから一つ選べ。[35]

- 宇宙の本体としてのアートマンと人間存在の本質としてのブラフマンは同一である。
- 永遠不滅の実体は存在しないから魂も滅びざるをえず、輪廻の主体とはなり得ない。
- 個人の行為としての業は善業であろうと悪業であろうと必ず果報として享受される。
- 生きものを傷つけないアヒンサーこそ解脱のために必要な戒律である。

第6問 次の文章を読み下の問い(問1～問7)に答えよ。(配点 18)

釈迦は修行方法として、身心を苦しめ鍛えて超能力を得る苦行の代りに、精神の統一、安定によって真理を直観する〔36〕を採用した。真理の直観とは真実をありのままにみること、すなわち悟りで、それによって生死輪廻の苦から解脱するという。これが苦の滅、〔37〕と呼ばれる究極の目標である。釈迦の方法は、一方で自然的欲望に身をまかせる快樂主義を否定し、他面、苦行を捨てる点で、(a)苦樂の兩極端を離れた中道と称される。

また、釈迦は人生問題の解決に直接役だたない形而上学的問題(たとえば世界の有限・無限とか、創造因とか)については質問されても解答せず(無記)、判断を中止している。この点、釈迦は実務的で、自らの立場を病いに応じて薬を施す医者にたとえている。すなわち、苦悩を観察し、その由来するところをつきとめて、これを断つべく、その方法を教えるのがその任務であるとする。これは、(b)四諦にまとめられ、仏教の基本とされる。

この知的・合理的方法の行き着くところ、仏教では真理を悟ることに直接の目標が移行し、(c)悟りの完成者たる仏陀がその理想像となった。同時に真理こそ永遠不変の絶対的価値で、釈迦はただそれを発見し、人々にそれに至る道を教えた仲介者にすぎない。人はその教えに従って、覚者となるべく修行する。真理が絶対で、ブッダを通じて開顕されるということは、真理がキリスト教などの神の地位に代わるものであることを示す。しかし、仲介者、教主としてのブッダはキリスト同様一人であるとしても、〔A〕ここでいう釈迦が悟った真理を仏教では〔38〕と呼び、仏の教えはその真理を内容とするので、同じく〔38〕と呼ばれる。

問1 文章中の空欄〔36〕～〔38〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|----------|--------|
| 〔36〕 | 〔 | 断食 | 六波羅蜜 |
| | | 観想 | 禅定 |
| 〔37〕 | 〔 | ヴァジュラヤーナ | シューニャ |
| | | サンサーラ | ニルヴァーナ |
| 〔38〕 | 〔 | マハーヤーナ | ストゥーパ |
| | | ダルマ | スッタ |

問6 原始仏典で説かれる苦しみを生む原因についての記述として、**適当でないもの**を、次の ~ のうちから一つ選べ。[43]

未だことがらを理解せず、嫉妬心のある、くだらぬ人・愚者に親しみつかえるならば、ここで真理を弁え知ることなく、疑いを超えないで、死に至る。

泣き悲しんでは、心の安らぎは得られない。ただかれにはますます苦しみが生じ、身体がやつれるだけである。

過剰な情念が理性に従わずに誤った行為を引き起こす。自然を支配する法則に従うことこそ苦しみから逃れる方法である。

欲望をかなえたいと望み貪欲の生じた人が、もしも欲望をはたすことができなくなるならば、かれは、矢に射られたかのように、悩み苦しむ。

問7 慈悲に関する次の文章中の、[a] ~ [c] に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[44](2004 年センター本試験より)

「慈悲」とは衆生に [a] を与える「慈」、衆生の [b] を取り除く「悲」から成る、生けるものすべてに向かった普遍的な心の在り方をあらわしている。[c] を目的とするといわれる上座部仏教に対して、大乘仏教では利他の心としてこの慈悲が強調される。そして、菩薩はこの慈悲の姿の理想であり、衆生の救済に努めるとされる。

- | | | |
|-----|-----|---------|
| a 楽 | b 苦 | c 自他の解脱 |
| a 楽 | b 苦 | c 自己の悟り |
| a 福 | b 厄 | c 自他の解脱 |
| a 福 | b 厄 | c 自己の悟り |

第7問 次の文章を読み下の問い(問1～問4)に答えよ。(配点 12)

紀元前後ごろから、主として在俗信者たちを中心として、新しい仏教復興運動が展開された。その運動には、彼らの意気ごみに賛同し、旧仏教にあきたりないで、そこを飛び出してきた出家者たちの参画も見のがしてはならない。彼らのうちにはその運動の理論的指導者となった者もいたであろうし、また大乘經典の制作に関して重要な示唆を与えた者もいたと思われる。これらの人々は、インド各地に散在する〔45〕を中心に集まり、仏陀を崇拜し、仏陀への熱烈な信仰をもっていた。彼らは仏陀の前生における呼称である〔46〕を理想的な人間像とみなし、またこの運動に邁進する者を、老若男女を問わず、〔46〕と呼んだ。

彼らはやがて、自らの思想を表明する手段として、新しい經典を次々と作り出していた。(a)『般若經』『法華經』『華嚴經』『阿彌陀經』などの經典群である。これらの經典のなかで、彼らは自らの新しい仏教運動を、あらゆる人々の救いをめざす大きな乗り物という意味をこめて大乘と称し、従来の旧仏教を限られた出家者だけの小さな乗物という意味で小乗と貶称した。

大乘仏教の基本的理念は、慈悲に裏打ちされた空 理論的には、あらゆるものはそれ自体の固有の実体をもたない無自性なるものであり、それゆえ実践的には、なにものにもとらわれない心で行動する無執着であれ の立場にあるといわれる。また仏に絶対的に帰依し、かつ自己のうちに〔47〕を認め、それを体現することを彼らは目指した。そのためには般若の智慧と方便の慈悲とを兼ね備えることを目指し、特に他人に対する善きはからいとしての利他行を第一の眼目と考えた。

このような大乘仏教運動は、のちに (b)竜樹、無著、世親らによって、その思想が組織され体系化された。5世紀ごろから密教が盛んになり、ついで7世紀ごろからヒンドゥー教が勢力を盛り返す。そして1203年ベンガルの仏教の中心であったピクラマシラー寺が、イスラムの軍隊に破壊されるにいたり、中央インドから仏教はその姿を消すことになる。

問1 文章中の空欄〔45〕～〔47〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの～のうちから一つずつ選べ。

- | | | | |
|------|---|-----|-----|
| 〔45〕 | 〔 | 仏 像 | 仏足石 |
| | | 仏 塔 | 法 輪 |
| 〔46〕 | 〔 | 菩 薩 | 声 聞 |
| | | 如 来 | 阿羅漢 |
| 〔47〕 | 〔 | 仏 性 | 解 脱 |
| | | 煩 悩 | 渴 愛 |

問2 下線部(a)に関して、『般若経』についての説明として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[48]

仏陀が説いた三乗の教えも、究極的には一つであるとする一乗思想によって寛容と方便とを示し、久遠実成の本仏を樹立する

悟りを開いたばかりの仏の境地をそのままに表現し、広大な毘盧舎那仏の世界のなかで10の修行段階を説く。

在家の長者の病気を菩薩や仏弟子たちが見舞うが皆やりこめられる。文殊菩薩のみが対等に問答をし、最後に長者は究極の境地を沈黙によって示す。

空観の立場に立ち、またその境地に至るための六波羅蜜の実践、とくに智慧の波羅蜜の体得が強調される。

問3 下線部(b)に関して、竜樹(ナーガールジュナ)の思想の説明の記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[49]

眼、耳、鼻、舌、身、意の六識のほかに、あらゆる表象を生み出す根本識として、その種子を蔵するアーヤ識と、自我執着意識であるマナ識との二つがある。

仏となる素質は生あるものすべてに生まれながら備わっており、迷い・苦しみ・悩んでいる私たち衆生のだれもが如来・仏となりうる。

一切を経験のうえでとらえ、それを純粋な精神作用としての識に還元する。逆にいえば、識の分別の働きによって、すべての現象や存在が現れる。

すべてが空であるということが縁起であり、有でもなければ無でもない空こそが中道である。

問4 最後の問題は今年のセンター試験からの出題です。ゴータマ=ブッダの解脱観の記述として最も適当なものを、次の ~ のうちから一つ選べ。[50]

(2008年センター本試験より)

人は、自分の中に永遠の要素を見出すことによって、解脱できる。

人は、苦の原因を認識し執着から離れることによって解脱できる。

人は、不可知なるものの存在を認めることによって解脱できる。

人は、身体的な苦行を積み重ねることによって解脱できる。

以上で問題は終わりです。